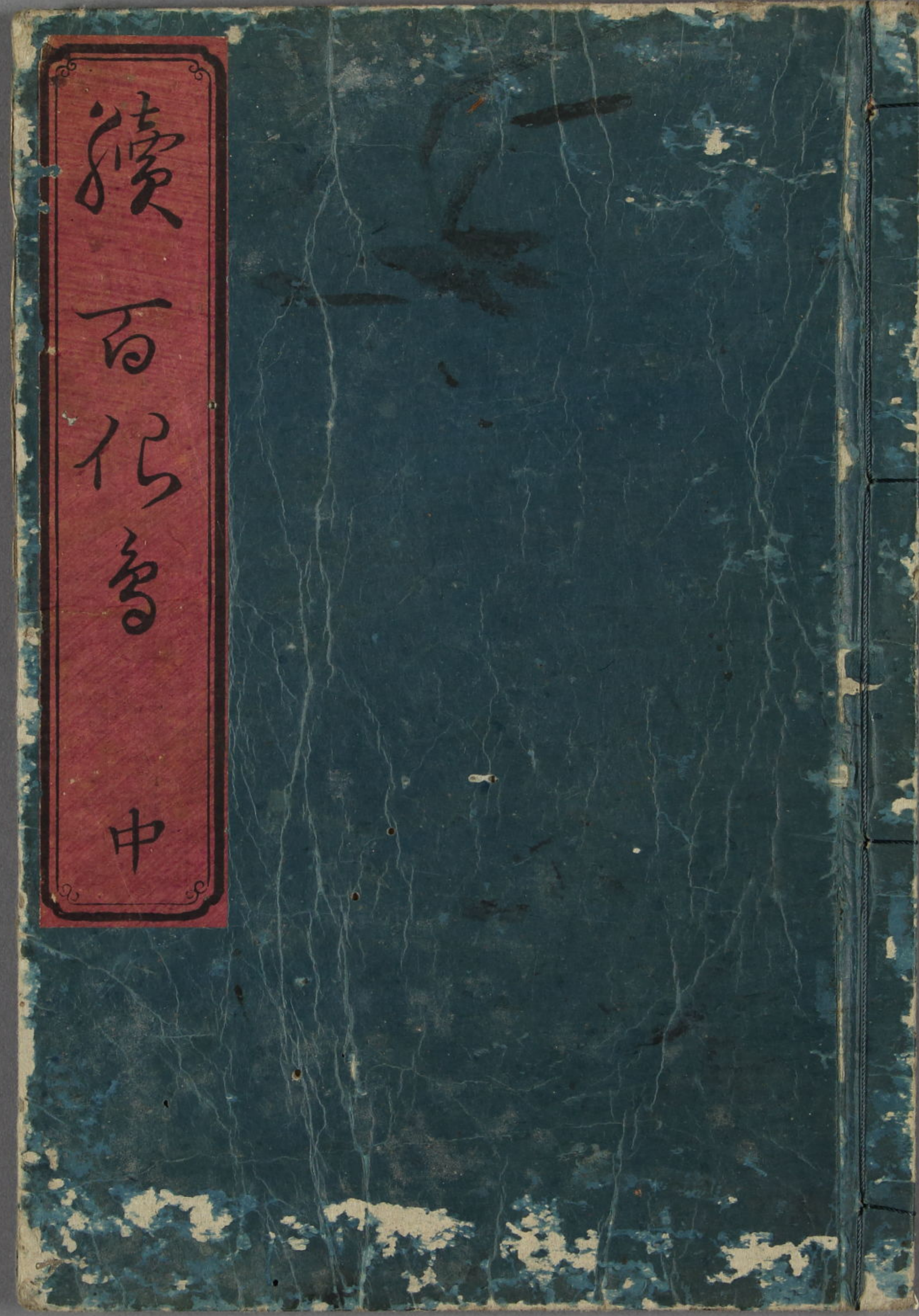
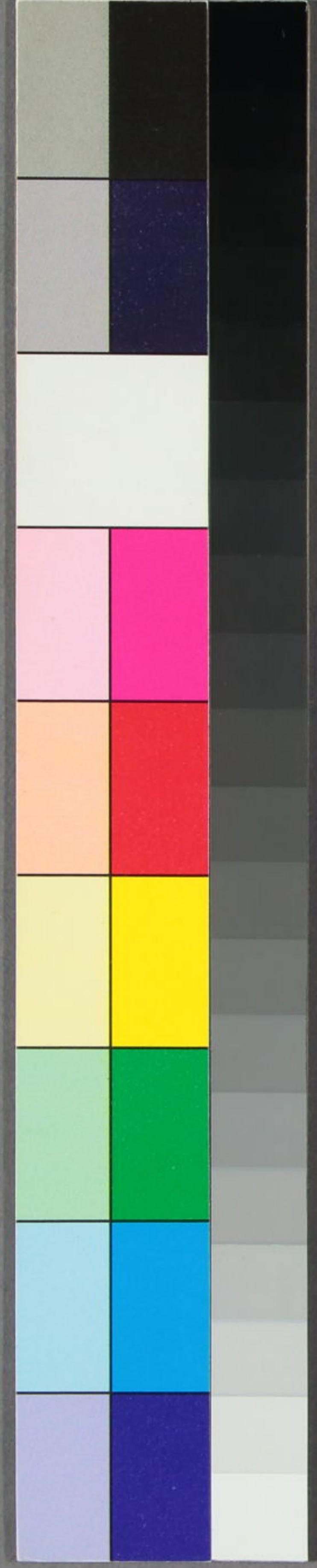




孝

子

圖

中





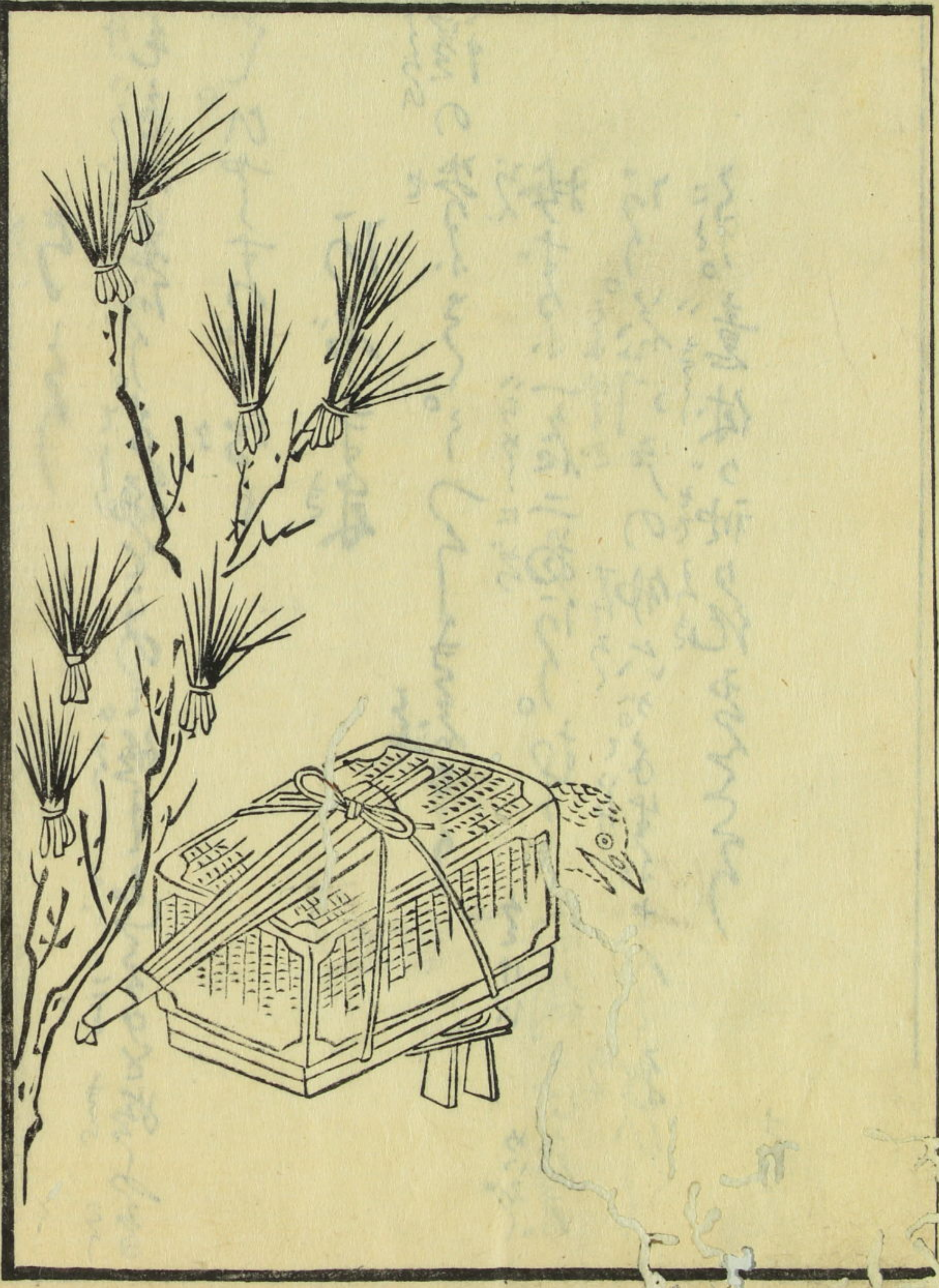
五
五

けいろこきい
色を又采たけう。も梅をのみ。修し
し。ひやうすわと鳴く
な

あがまふまき

程の考ふき。う。つ。き。ん。ち。う。

りん
 梅ずるふ一名二物なり。むし花街にむし
 たり。花江戸のゆゑにむしふせんといふ
 こと。意休り社にむしふせんといふ



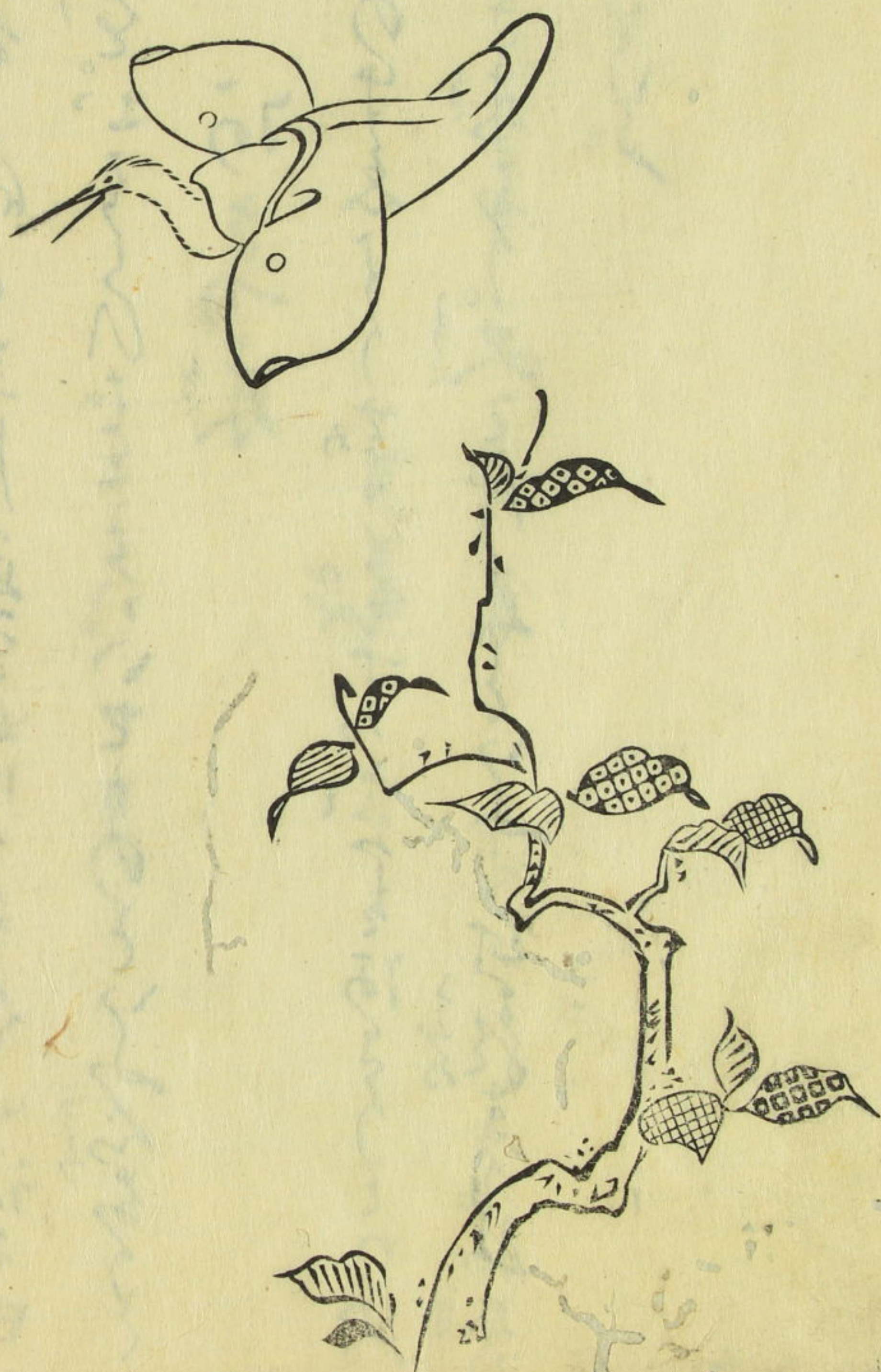
歌百中四

ひまわり

おひめとひめ。三月葉をかゆき。一説は日
けきと。おひめとひめと。いせのといふと

あさつば

二月のすきと。すきと。実をいそぐといふ。
くさきと。又いそぐといふ。くさきと。あさ
つばといふ。



かいざり

ざいめん とうり けいろうんきょう
 上あかりのきょうきょう。毛をさきうらう。松竹をい
 めいさきあまうやう

あいな

あいなすうが た けい けい
 中河治の丁屋うら 町ふぬ。花をうらあ井こ
 席の子。いふたをさきうらう。松竹をい
 一名むくとも云



ひやくとんを

ひやくとんを。水入て口と喉くをまて。ぐさあ
 く。とるものかひほひも。ひも。ひも。
 ねとけちまて。さふのかう。あま

かたれあま

ふさ。花とう。ひも。けあま。海山。う。い。で。庭
 かつ。実。い。う。ひ。と。ま。る。人。の。け。が。り。の。な。れ。ど。
 ころ。地。の。す。う。あ。い。ん。か。れ。さ。ね。で。心。ま。ね。ゆ。
 奇。も。さ。ひ。ま。さ。う。て。花。の。さ。う。う。と。う。あ。ま

景升代

續百中八尾

Handwritten text in a rectangular frame, likely bleed-through from the reverse side. The text is written in a cursive script and is mostly illegible due to fading. A dark ink blot is visible near the center of the frame.

